

## 日本臨床検査自動化学会 第45回大会

行 正 信 康\*

日本臨床検査自動化学会第45回大会が平成25年10月10日(木)~12日(土)の3日間、パシフィコ横浜・会議センターで開催されました。近年、日本臨床検査自動化学会大会の会場は固定されており、パシフィコ横浜が使用され、3年間に一度神戸コンベンションセンターで開催されます。第45回の大会長は、村上正巳先生(群馬大学大学院医学系研究科臨床検査医学)が務められ、メインテーマとして「明日の医療をリードする臨床検査の進歩」が掲げられました。日本臨床検査自動化学会が一般社団法人となり初めての大会であり、本学会が新たな一步を踏み出すにあたり、明日の医療における臨床検査の責任と役割の大きさを見直す機会となることを目的に、様々なプログラムが組まれた大会でありました。大会期間中は、天候にも恵まれ、2,400名余りの参加人数であったことが報告されています。

日本臨床検査自動化学会は、その名称が示すように、臨床検査業務の省力化・効率化を図ることにより、膨大な検査を短時間かつ正確に処理し、診療部門にフィードバックする目的のため1964年に設立されました。医療機関には、安心で安全かつ質の高い医療を効率よく提供することが求められています。臨床検査領域においても例外ではなく、科学的水準を維持しながら検査業務を省力化、効率化することが要求されています。そのためには、高度な分析技術や情報解析能力の開発が必要であり、検査の自動化技術の発展は不可欠なことであります。このような臨床検査が置かれて

いる状況を踏まえると、検査室を運営する臨床検査技師、臨床検査医だけでなく、臨床検査関連企業との連携が大切であり、このことを学会という組織で実践していることが本学会の大きな特徴でもあります。平成25年には、日本臨床検査自動化学会は一般社団法人としてスタートしましたが、その役割は変わることはありません。余談ではありますが、筆者は、一般社団法人として初めて理事・監事を決める役員選挙の選挙管理委員の一人として任命されました。厳正なる選挙を行うためいろいろ苦労もありましたが、無事に選挙を終えることができ胸を撫で下ろしています。その後、選出された理事の中から渡邊直樹先生(札幌医科大学医学部臨床検査医学講座)が理事長に就任されています。

日本臨床検査自動化学会大会は、検査の自動化



写真 大会会場(パシフィコ横浜)

\*香川県立保健医療大学保健医療学部臨床検査学科 yukimasa@chs.pref.kagawa.jp

表 JACLaS EXPO 2013 - 臨床検査機器・試薬・システム展示会 - 参加人数

	医療施設 大学・病院・検査センター	一般 メーカー・ディーラー	海外	合計
10月10日(木)	622	1,445	98	2,165
11日(金)	1,537	2,801	71	4,409
12日(土)	714	550	43	1,307
合計	2,873	4,796	212	7,881

技術そのものに関する内容ばかりではなく、広く臨床検査医学を支えるに必要な最新の学術的プログラムが組まれています。第45回大会では、特別講演として、日本動脈硬化学会理事長の寺本民生先生(帝京大学医学部臨床研究センター)の「動脈硬化と臨床検査」、教育講演は、尾崎由基夫先生(山梨大学大学院医学工学総合研究部医学系領域臨床検査医学)の「血小板を巡る最新の話題：血栓止血以外の役割」と横田浩充先生(東京大学医学部附属病院検査部；現 東邦大学)の「遺伝子関連検査の院内導入」の講演が行われました。シンポジウムは4つのテーマ、「感染症の診断における臨床検査の進歩」、「循環器疾患のバイオマーカー検査の進歩」、「健診と人間ドックにおける臨床検査の課題と展望」、「臨床検査の卒前・卒後教育と研究の新たな展開」が企画され、それぞれの分野の第一線で活躍されている先生方が講演されました。興味深いのは、最近、臨床検査関連学会において、臨床検査教育に関するシンポジウムが企画されることが多くなったことです。本大会でも臨床検査技師の生涯教育を卒前・卒後を通して総合的に考える必要性が述べられたシンポジウムでした。臨床検査技師卒前教育を担う一員として、スムーズに卒後教育担当者へバトンタッチすることの重要性を認識し、そのための手段として学会の場を活用する有用性を痛感しました。一般演題は306題と多くの優れた演題が発表され、各会場で活発な討議が行われました。日本臨床検査自動化学会の各委員会からは、科学技術セミナー、遺伝子・プロテオミクス技術セミナー、POCセミナー、血液検査機器技術セミナーが企画されました。また、機器・試薬セミナー9題、ランチオンセミナー18題、サテライトセミナー5題と盛り沢山で、リアルタイムの臨床検査の動向を実感す

ることができました。

さらに、本大会の特徴として、わが国最大の臨床検査機器・試薬の展示会が同時開催され、多くの関係者の期待するところとなっています。今回より、一般社団法人日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会(JACLaS)が主催した展示会が開催され過去最大規模になりました。

臨床検査技師を目指す学生は、国家資格取得後直ちに医療人として、臨床検査の現場に巣立って行きますが、臨床検査技術は日進月歩で急速な技術開発が進んでいる現状があります。学校教育においては、臨床検査各分野の基礎的な内容を教育することが必須ですが、それだけでは、卒業学生が実際の医療の現場に出たとき、学校教育における技術・知識にギャップを感じる可能性が高いと思います。臨床検査の教育者としては、常に新しい臨床検査に関する技術・知識を情報として収集する必要があり、また、最先端の科学水準を学生に伝え、最新の臨床検査の現状を紹介することが必要であると考えます。この意味において本学会大会に参加したことは検査技師養成課程の教員として非常に有用な体験となりました。願わくは、学会側に専門学校生を含む臨床検査技師を目指す学部学生の多くが参加可能な企画を取り上げていただき、先端の臨床検査技術を体験させ、卒後教育への足掛かりとなることを望みます。

日本臨床検査自動化学会第46回大会は、平成26年10月9日(木)～11日(土)の会期で、神戸コンベンションセンターにおいて、大会長 石井潤一先生(藤田保健衛生大学医学部臨床検査科)のもと開催予定です。臨床検査教育に関わる多くの皆様が最新の臨床検査技術を体験されることを期待しております。